JASE
現代性教育研究ジャーナル
MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2019年
No. 104
2019年11月15日（毎月15日）発行

日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2019 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

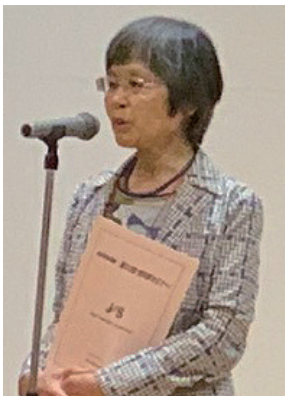
contents

第20回JFS性科学セミナー報告 …… 1
SEE対話型ワークショップ報告 …… 6
思いこみのめがね⑳ …… 9
性教育の現場を訪ねて㉜ …… 10
多様な性のゆくえ㉛ …… 12
今月のブックガイド …… 13
JASEインフォメーション …… 14

◆第20回JFS性科学セミナー報告

性の健康──平成から令和へ──

10月5日（土曜日）午後1時より鹿児島市の「鹿児島市医師会館」において、「性の健康─平成から令和へ─」をテーマに第20回JFS性科学セミナーが開催された。主催の日本性科学連合（JFS）を構成する5団体の代表5名が、それぞれの専門分野から講演を行った。講師等も含め、約120名の参加者があった。



開会にあたり、日本性科学連合（JFS）の大川玲子会長が、日本性科学連合の成り立ちと構成団体の紹介、歴史、さらに今回のテーマ選定の経緯を紹介した。続いて、早乙女智子氏（ルイ・パストゥール医学研究センター研究員）、柳田正芳氏（若者世代にリプロヘルスサービスを届ける会）両座長のもとで、5名の講師が「性の健康─平成から令和へ─」をテーマにそれぞれ35分の講演を行った。

以下、前半3名、後半2名、計5名の専門分野からの講演概要を紹介する。

前半は、13時10分より林雄亮氏（武蔵大学社会学部准教授）の「青少年の性行動の軌跡：1974～2017年─青少年の性行動全国調査の結果から」をテーマの講演が始まった。

青少年の性行動の軌跡：1974～2017年
──「青少年の性行動全国調査」の結果から

日本性教育協会（JASE）を代表して武蔵大学社会学部准教授の林雄亮氏は、2017年6月～12月に実施され、全国43地点の計86校の中学校・高校・大学に通う12,925名から回答を得た「第8回青少年の性行動全国調査」の結果報告を行った。併せて、林氏自ら分析した第1回調査からの経年変化についても報告された。

「第8回調査の包括的な知見について、その主要な

結果は青少年の性行動の消極化の進行と分極化である。性行動の消極化について、第７回（2011 年）調査ではデート・キス・性交といった主要な性行動の経験率がそれまでの上昇傾向から一転して全体的に大きく低下し世間の注目を集めた。今回の第８回調査でもその傾向がさらに続いていることが明らかになった。例えば大学生のキスや性交の経験率は 30 年前に実施された第４回調査時の水準にほぼ等しい。また性の心理的側面については、性的関心をもった経験がある割合が男子ではおおむね前回調査の値より上昇しているのに対し、女子では逆に低下している。性に対するイメージの悪化も女子において顕著であることから、性の行動的側面のみならず、心理的側面においても消極化が女子で顕著に進行している」という。

また、性行動の分極化が顕著に見られるという。その概要は、以下の通り。

①性行動の分極化とは多義的であり、まず男子内部、女子内部で性行動に積極的な層と消極的な層への分化がみられる。その傾向はとくに女子において顕著で、新しい世代ほど 10 代前半での性行動経験率が高く、その後の年齢段階における累積経験率の上昇が鈍い。つまり早期に経験する者とある程度の年齢になっても経験がない者に分極化しており、「年頃になればみんな経験していくだろう」という性行動の発達論的な予想とは明らかに異なっている。

②もう１つの分極化の内実は性差の拡大である。1990 年代の性行動の活発化とともに性差は縮小してきたが、第８回調査で新たに加わった 2000 年代生まれ世代では、それ以前と比べて性行動の女子先行の状況が際立っている。さらに性的関心をもった経験については、男女ともに経験の遅れが生じているという消極化と、新しい世代ほど性差が拡大しているという分極化が同時進行している。

性感染症学会における看護職の役割

林氏に続いて、13 時 45 分から、日本性感染症学会（JSSTI）を代表して東京医療保健大学教授の齋藤益子氏が「性感染症学会における看護職の役割」と題した講演を行った。

最初に日本性感染症学会の設立の経緯を紹介、その後、学会における看護職の役割について、次の様に語られた。

「ここ数年、梅毒の罹患者が増加して社会問題になっています。また、HPV の予防ワクチンについてもコンセンサスが得られないまま、積極的接種が進められていない現状が続いています。これらの性感染症の拡大を未然に防ぐためには、性交を開始する前からの「性感染症予防教育」が大切です。保健師・助産師を中心にした看護職は幼少期からの健康教育や母親に対する関わりを密にする職種です。特に生命誕生に携わる助産師は、命の教育の出前授業として学校教育に参入する機会が多くあります。その出会いのなかで、子どもたちに性感染症に関する知識を提供し、予防行動がとれるように関わる必要があります」と感染症予防教育とその予防教育に関して、保健師・助産師を中心にした看護職の役割の重要性を強調された。

性機能の立場から性の健康を考える
── Future of sexual health ──
World meeting on sexual health 2020 へ向けて

14 時 20 分から日本性機能学会（JSSM）を代表して講演を行った佐藤嘉一氏は、冒頭「日本性機能学会の立場から平成の時代を振り返り、令和への課題を検討したいと思います」と語られた。

佐藤氏は、札幌医科大学医学部卒業後、Albert Einstein College of Medicine に留学、2000 年に札幌医科大学講師、2002 年に三樹会病院勤務、2015 年に三樹会病院院長、2015 年４月には札幌医科大学臨床教授という経歴で、日本泌尿器科学会の専門医・指導医、日本性機能学会副理事長、世界性機能学会の理事なども務められている。

佐藤氏は、セミナーの抄録に次の様に記している。

日本性機能学会は、1978 年（昭和 53 年）インポテンス研究会として発足したことからも男性の性機能

障害勃起不全（erectile dysfunction：ED）の診断・治療を中心に進んで参りました。1995年（平成7年）には日本性機能学会と名称を変更し、女性の性機能障害も含め、その病態生理の基礎研究、診断・治療に取り組んでおります。

そこでこの平成の30年間における1.男性性機能障害の治療の進歩と課題、2．女性性機能障害のトピックスをお話します。また我が国においては、性交頻度が低く、さらには、性生活に関する満足度でも世界で最も低い国として知られています。性機能障害の治療が我が国のQOLの向上に結びつくためには、治療が実際の性生活に結びついていかねばなりません。そこで次に、3．性機能と性生活のギャップを埋めるためには何をしてゆけばよいのかを考えたいと思います。そして最後に日本性機能学会では来年の9月に横浜で世界性機能学会を開催致します（World Meeting on Sexual medicine：WMSM2020　9月 16～19日、2020パシフィコ横浜 https://www.wmsm.org/）。今述べた課題の解決に向けWMSM2020は、とても良い機会だと考えております。WMSM2020が、多くの課題を解決してゆくきっかけとなれるよう現在の企画やアイデアを皆様と共有したいと思います。

佐藤氏は、「性機能障害の治療の進歩と課題」では、ＥＤ治療薬の最新の動向、「女性性機能障害」では、閉経に伴うエストロゲン及び他の性ホルモンの低下により尿路生殖器系に生じる多くの症状を含んだ概念であるGSM（Genitourinary syndrome of menopause）について語られた。最後に、「性機能障害の治療が実際の性生活に結びついてゆくためには、カップルの関係性など多くの要因が関与しているものと思われます。これらの性機能から性生活への“大きなギャップ”を埋めるためには、まさに性に関する学会が集まり知識と経験を出し合い、そしてその成果を社会に啓蒙してゆくことが重要だと思います」と講演を結ばれた。

性相談の変遷と今日の課題

15分間の休憩後、日本性科学会（JSSS）を代表して金子和子氏（日本性科学会カウンセリング室／主婦会館カウンセリング）の「性相談の変遷と今日の課題」と題した講演が行われた。

金子氏は、40年以上の性相談の経験をもつ臨床心理士で、冒頭「性のありようは、社会の状況によって大きく変化しています。40年以上性治療にあたってきたが、その臨床の場は日本の性相談の状況の変化を如実に映し出す現場でもあった」と述べ、性相談の変遷と、今日の課題を語り始めた。

相談内容の主訴の変遷を整理すると次の様になる。

男性：近年、男性患者の主訴で一番多いのは性欲の低下で、患者の訴えとしてはセックスレスである。日本性科学会カウンセリング室が開設（1983年）された当初からしばらくは勃起障害が一位を占めていたが、2000年ころからセックスレスが一位になっている。男性の訴えで、注目すべきもう一つの点は、「身内の相談」の増加である。男性は長らくほとんどが自分の問題で来所しており、身内の相談で来所するのはここ10～15年のことである。その内容のほとんどは、妻がセックスをしたがらない、嫌がる、というものである。

女性：女性においては、1998年に初めて「身内の相談」が「挿入障害」に一位を譲った。女性が自分の性の問題で相談に行くというのがためらわれる時代を経て、現在では自分の性の問題で来所するようになっているが、女性の問題で一番多いのは挿入障害である。器質的な問題があるのかと診察を受けても異常は見られない。中には処女膜強靭症とされ、手術を受けても解決しない、とのことで来所する患者もいる。

最近の傾向については、①主訴の変化、②内容の複雑化、③患者の年齢層の上昇、④ネットの浸透、⑤患者の減少、の5点を挙げている。

それぞれの内容を簡単に紹介する。

①の主訴の変化

男性の勃起障害が減少したのは勃起治療薬の発売が原因だとする人もいるが、勃起障害が低下し、セックスレスが増加する傾向は、その10年ほど前から起きているので単に勃起治療薬の発売が原因ではない。その背景にあるのは、緊張性の勃起障害が減ったことであると考えられる。

男性のセックスレス（性欲低下）実数が増加したの

かは、相談者からだけでは不明であるが、日本性科学会の「セクシュアリティ研究会」が2000年と2012年に、40歳以上を対象として同じ項目を調査した中高年のアンケート調査によれば、約10年間の変化として目立ったのは、「セックスレス」が著しく増加したことであった。その調査によれば、配偶者への愛情の低下や、離婚希望が増加する等、配偶者とのきずなが弱まっていることが示唆された。結婚イコール安定した性生活ではなくなってきており、それが性相談にセックスレスの増加として表れていると考えられる。

②内容の複雑化

勃起障害を例にとると、単純な緊張性のものが減少し、性格、対人関係の持ち方等に深く根差したものが増え、かつ、パートナーとの関係で、治療が進みにくいことが多い。一方の性的な問題が解決しかけると、他方の問題が浮かび上がってきたり、浮かび上がることを恐れて、治療の足を引っ張るということも珍しくない。

③患者の年齢層の上昇

女性でみれば、2000年に20代の患者の割合は41％であったが、2018年には20代は5％に減少している。結婚年齢が高くなり、しかもほとんどが恋愛結婚なので、女性では来所時には30代後半になっていることが多い。

④ネットの浸透

インターネットの普及が来所経路を変化させただけではなく、治療の在り方にも影響をあたえている。問題解決の糸口が簡単に見つかるのは好ましいことではあるが、時として、過剰な情報に困惑したり振り回されたりすることも少なくない。また、自分から、治療状況をブログ等で公開する人も出てくる。患者が発するそうした情報は必ずしも正しい、あるいは、多くの人に当てはまるとは限らない。それを見極めることは困難である場合が多く、患者たちを惑わせたり不安にさせることもある。

⑤患者の減少

ここ数年患者数が減ってきている。それにはいくつかの原因が考えられるが、多くの治療機関でも、最近は相談者が減ったといわれる。自分の問題と向き合って、取り組もうとする姿勢が希薄になってきていることは、他の相談部門でも、しばしば言われることである。

平成元年と令和元年の思春期男子

最後の講演は、日本思春期学会（JSA）を代表して聖隷浜松病院リプロダクションセンターの今井伸氏が「平成元年と令和元年の思春期男子」と題した講演を行った。今井氏は、抄録の冒頭に次の様に記している。

最初から個人的な話で恐縮ではあるが、平成元年の始まった日の私は高校2年生であった。少なくとも勉強漬けの毎日を送っていたわけではなかった私は、今でもその当時の思春期男子の文化や生活をある程度鮮明に思い出すことができる。そして、令和元年の始まった日。私の長男は高校1年生であった。中学・高校へ性教育の講演に行っていることもあり、長男だけでない思春期男子に会うことも少なくない。この現代の環境の中で、性に目覚めた思春期男子がどのようなことを考え、どのような行動を起こそうとするのか、平成と令和の文化的社会的背景を比較しながら、令和思春期男子の傾向と対策を考えてみたい。

講演の内容は、抄録で述べている通り、個人的でかなりマニアックなものであった。「日常生活で思春期男子が関係しそうな項目を、独断と偏見で列挙し比べてみた」というのが次ページの表1である。

表2は、恋愛に関する変化を対比したものである。恋愛開始までの基本的な流れは大きくは変わっていないかもしれない。しかし、SNSなどを通じて出会いの門戸は大きく広がっている。家に電話をかけたり、直接会って手紙を渡したりする手間やストレスは、スマホを所持することによりかなり軽減していると思われる。また、コンドームは、コンビニの増加により、明らかに購入しやすくなっている。ちなみに、ラブホテル（ファッションホテル）は平成元年の方が約1.8倍も多かった。

今井氏は、まとめとして「性的な問題を中心に、平成と令和の時代を比較して、現代の思春期男子の問題点を考察してみた。環境は違えども、基本的人権の尊

表１

	平成元年	令和元年
全体的な物価	ほとんど変わらず	
小遣い	ほとんど変わらず	
母親	放任が多い	過干渉が多い
18 歳人口	193 万人	117 万人
大学・短大進学率（現役）	30.7%（男 24.6%、女 36.7%)	54.8%（男 51.7%、女 57.9%）
大学（短大除く）進学率（浪人生含む）	24.7%（男 34.1%、女 14.7%)	53.7%（男 56.6%、女 50.7%)
コンビニ	16466 店（田舎にはない）	55633 店（どこにでもある）
缶ジュースの値段（自販機）	100 円	130 円
ラーメンの値段（平均）	437 円	有名店　694 円 食べログ上位店　789 円格安店　447 円
少年ジャンプの値段 ジャンプコミックスの値段	180 円 370 円	260 円 475 円
テレビ	世界まるごと HOW マッチ ねるとん紅鯨団	YouTube
ゲーム	ゲームボーイ、テトリス ファミコン	ネットゲーム スマホ所有率　91%
アイドル	南野陽子、浅香唯、中山美穂、 工藤静香、WINK	欅坂 46

表２

	平成元年	令和元年
交際	直接出会う	直接出会う、SNS
	手紙を渡す	ライン、ツイッター
	家の電話	スマホ
デート	近くのデートスポット	
コンドーム購入	自販機、町の薬局	コンビニ
ラブホテル	9690 件	5417 件

重や守るべき社会のルールなどは変わらない。平成元年の頃なら、いたずらは隠れてやってばれないようにしたものだが、現代では問題になることを知ってか知らずか、わざわざ SNS で発信したりする。言わなくてもわかっているはずのことが、令和の思春期男子には言われないとわからないことになっていることもある。現代思春期男子特有の考え方や行動の傾向に留意しながら、そんなこと言わなくてもわかるはずとは考えず、最低限守らなければならないルールなどはきちんと口に出して伝えなければならないと思われた」と述べている。

今井氏の講演終了後、16 時 20 分より、５人の講演者と参会者の間で、約 40 分ほど全体討論が行われ、第 20 回の節目となる性科学セミナーは、盛況のうちに終了した。

翌10月６日（日曜日）には、同じ会場において第39回日本性科学会学術集会が「新時代の性科学を模索する」をテーマに開催された。

なお、次回の第 21 回 JFS 性科学セミナーは、2020 年 10 月 24 日（土曜日）に、東京・千代田区の御茶の水ソラシティで開催される予定である。

◉ SEE（Sexuality Education&Empowerment）主宰・対話型ワークショップ報告

こんなとき、どうする？どうみる？
性にまつわる様々なトラブル
～学校現場での被害・加害を中心に～

10 月 5 日（土曜日）SEE（Sexuality Education&Empowerment）主宰の対話型ワークショップが鹿児島市の鹿児島市医師会館で開催された。10：00 から 12：00 まで、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」、児童生徒の性的な発達段階をふまえつつ「遊びと暴力の違いを見極める視点」を共有することを目的としたセミナーが開催された。

はじめに

学校で起こる性被害や性問題行動は、珍しい出来事ではない。いまや「よくあるトラブル」の一つになっている。

ところが、こうした性的なトラブルへの対処をする際に生じるのが、教職員間の認識のズレ、問題を懸念する教職員と、「たいしたことではない、おおごとにすべきではない」と思う教職員の間で、判断がブレて、初期対応が遅れる事例がみられる。

今回の SEE のセミナーは、ワークショップが中心で、支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」、児童生徒の性的な発達段階をふまえつつ「遊びと暴力の違いを見極める視点」を共有することを目的としたセミナーであった。

参加者は講師を含めて 31 名、ワークショップは２部構成。それぞれの講師によるレクチャー後、１組４名のグループに分かれ、グループワークが行われた。

レクチャー１　講師：野坂祐子氏

大阪大学大学院人間科学研究科の准教授で、臨床心理士・公認心理師の野坂祐子氏が最初の講師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行い、児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバイザーである野坂氏は、主に「境界線（バウンダリー」についてのレクチャーを行った。

「境界線は、状況や関係性によって変化する」ことを理解することが重要であるとして図１で説明。

詳細な内容紹介は、紙数の関係もあって難しいので、参加者の研修後のアンケートを紹介する。

図１

▶アンケート１

全身を耳にしてインプットに努めました。境界線の大切さ、ここが肝で様々な困り事や犯罪につながっていくと思いました。子どものうちに境界線の大切さを頭と身体で理解したら、悲しむ子ども、人々が少なくなるのでは？　と。自分の常識を常に疑うことはやはり貴重なことですね。これこそ本当の学びだ!!　と久々に思える充実した対話型ワークショップでした。もっと深く知りたいことばかりで興奮しました。

▶アンケート２

自分とは何か？　バウンダリーは？　自分の価値観とは？　をよく考えたいと思いました。とてもためになる内容をありがとうございました。

▶アンケート３

大人のとらえ方、子どものとらえ方（性的なスキンシップは人間関係を築くための物など）その違いは想像もしていなかった情報でした。知識として学ぶことができてとてもよかったです。同じ班のメンバーの方が良い方ばかりでとてもよかったです。

レクチャー２　講師：吉田博美氏

臨床心理士・公認心理師の吉田博美氏は、「わたしがなんとかしなくっちゃ」という場面での様々な心理反応について触れられた。吉田氏は、性暴力・性虐待被害者の心理療法が専門。

吉田氏は、「支援者によくあらわれる反応」を図２で解説された。

また、「トラウマ体験に触れた後に支援者によく生じる反応」について、「考えやイメージ」、「気持ち」

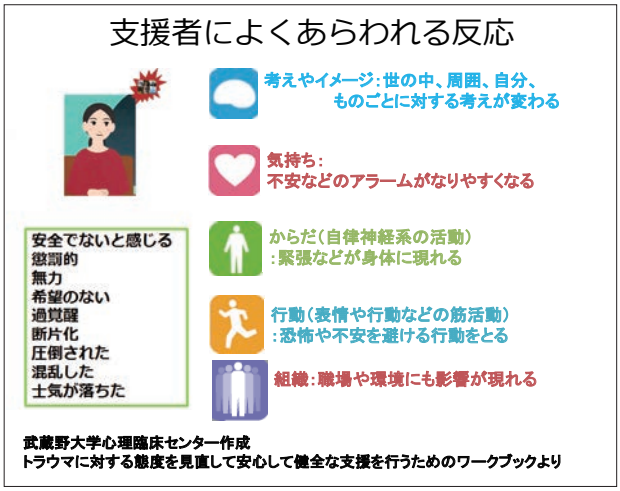


図２

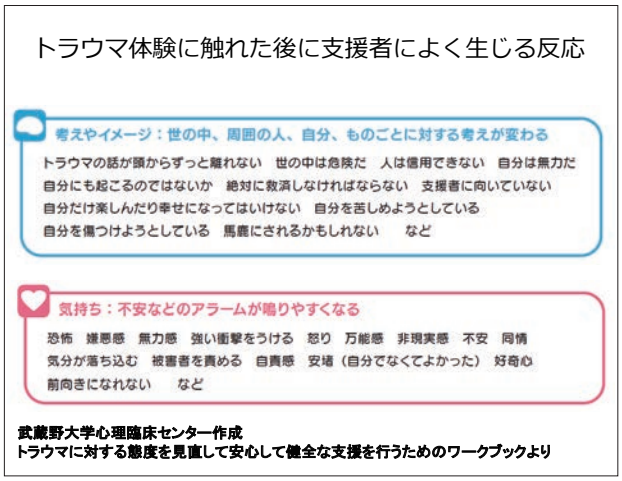


図３

を図３のように整理している。吉田氏は、「自分の反応に気づく」ことが大切であると強調された。

▶ アンケート４

同じ場面が起きているのに関わる大人によって見方が違うという話はとても納得しました。この部分だけでも、学校の先生たちと共有できたら支援する側が対応を一致させていけると思いました。

▶アンケート５

普段、性問題の支援等の現場で仕事をしている者ではないのですが、わかりやすく聞けました。性暴力のいろいろな記事を読む中でモヤモヤと分からなかったことが今日の講義やグループワークで得られた視点で考えるとよりすっきりするような気がしました。

▶アンケート６

今日の話を聞いて、学校の研修でやってほしいくらいの内容でした。自分自身の性に対する価値観であったり、考えであったりを振り返る機会になりました。今関わっている生徒へ向き合うことができそうです。いろんな人とつながり、一人で頑張りすぎず、一歩ずつやっていこうと思います。

まとめ　東　優子氏

東氏は、大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授で、WAS（世界性の健康学会）役員・性の権利委員会副委員長。ハワイ大学大学院でソーシャルワークを学び、大学では社会福祉士養成課程を担当している。

支援スキルを身につける「前」に必要なスキルとして、「様々な性の問題をどう捉えるか」を考える基本

となる「性の健康と権利」という視点から、セミナーをまとめられた。

▶アンケート７

自分の見直し、新しい視点、勉強になりました。３人の先生方の話はもっともっと時間をかけて伺いたいと思いました。グループワークももっと深められたら有益と思いました。

▶アンケート８

短い時間でたくさんの学びがありました。もっと時間があったらと思いました。自分自身が常に学ぶことが必要だと感じました。また機会がありましたら、セミナーに参加させてください。

▶アンケート９

凝縮された時間でしたが、できたら一日かけてしてほしい。講義もゆっくり受けたかったし、グループの対話も時間が欲しかった。消化不良感がすごいです(笑)。ここまで思える・感じられる研修はレアでした。

▶アンケート 10

どのテーマも興味深かったです。野坂さんの話は性に関わる者へのベースになる知識でよかったです。グループワークは他職種の人の考えが知れたのでよかったです。ケイパビリティ―については時間がない中ありがとうございました。もっとくわしく、次に機会があればなあ。

▶アンケート 11

学校の中で働くばかりなので、様々な目線から考え方を学びとてもためになりました。専門的な知識もなく、学校内で統一されない状態で私の学校では性教育を保健体育の先生が各クラスに行っています。また授業内だけでなく、生徒と関わる中で性の問題は少なくありません。現場で対面する問題に対し教員研修など知識を得る機会が欲しいな、必要だなと感じました。現場に今日学んだことを持ち帰りたいと思います。ありがとうございました。

（アンケートの文責・編集部）

アンケートにみられるとおり、凝縮されたセミナーで、次回も参加したいという声が多く聞かれた。

次回のセミナーは、2020 年３月８日（日曜日）に「大阪府立大学 I-Site なんば」で開催される予定です。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（tel 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi

思いこみの曲がね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義　Suzuki Shigeyoshi

公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。
専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

第20回
「初めてのパートナー」
小学校の先生になって

平成13年3月、4年間通った大学の教育学部を卒業しました。大学の友達は順調に進路を決め、それぞれの道へ進みました。教員、大学院、企業就職と進路も様々でした。

私はというと前の年に茨城県の教員採用試験を受けましたが、結果は不合格。卒業後は居酒屋でアルバイトをしながら、次の採用試験の勉強をしたり車の免許を取ったりすることにしました。ゲイである自分に気づいてから、大学時代にパートナーができることはありませんでした。それは残念でしたが、大学卒業間際まで、卒業論文やサークル活動にも明け暮れていました。卒業を惜しむかのように、友達ともよく飲みに行きました。いろいろな葛藤を抱えながらも、大学生活の最後も充実していたのかもしれません。

大学卒業間際は、なぜかよく「人生はバラ色だ」と考えていました。いま考えると決してそんな呑気なことを言っている状況ではありませんでしたが、そうでも考えないと不安に押しつぶされそうになっていたのかもしれません。ゲイの自分がこの先どう生きていくか、採用試験にも落ちてどうするのか。不安を払拭するかのように、強がってそんな思考になっていたのかな。

大学卒業後も、ゲイの出会い系の掲示板を使って人と会っていました。卒業後間もない4月、ある年上の男性と出会いました。駅で待ち合わせをし、公園を散策しながらお互いの話をしました。ランチが終わり、お茶もしました。何となく意気投合し、その日のうちにお互いの意思を確認しました。

生まれて初めて、パートナーができました。

「初めての彼氏、やったー！」「相手が好きで好きでたまらない！」そんな感じになると思っていましたが、意外と冷静な自分がいました。それよりも、人と付き合うってどんな感じなのだろうか、ちょっとやってみようという気持ちでした。

彼は既に社会人として会社勤務をしており、忙しい日々を送っていました。お互いに実家住まいだったため、平日に会うことはなく、週末に会うことが楽しみでした。いろいろな遊びを教えてくれ、歌手のコンサート、ミュージカルなどにたくさん出かけました。彼からいろいろな刺激を受けて、世界の広がりを感じました。今まで恋愛ということに関してはずっと1人だったので、「彼と共有する」ということがとても楽しくなりました。それは時間の共有であり、場所の共有、感情や行動の共有でした。同じ釜の飯を食うとは、こういうことなのだろうなと考えていました。

付き合って何か月かが過ぎたとき、彼が東京で一人暮らしを始めることになりました。そのことで、予定さえ合えば平日も休日も彼と一緒に過ごすようになりました。家で僕が料理をしたり、彼のシングルベッドで一緒に寝たりと、男女のカップルと変わらないことができるようになりました。大学卒業間際に虚勢を張っていたころとは違う、本当の意味で「人生はバラ色だ」の状態でした。ようやく、何か、自分が世界に追いついた感じもありました。

さて、教員採用試験。そちらはというと、無事に合格しました。受験地をふるさと茨城県から東京に代えたのです。夢が叶った瞬間でした。また、働いていたアルバイトを辞め、茨城県の小学校の非常勤講師として働くことになりました。地元の教育委員会に履歴書を出していたのですが、自分が6年生の担任の先生がそこで指導主事をしていたのです。その先生の仲介もあり、算数指導の講師として働き始めました。当時の校長先生にも、次の年の4月から東京の小学校で働くことを伝えました。校長先生はとても喜んでくれて、「この学校で働いているうちに、たくさんの先生のよいところを大いに吸収しなさい」とアドバイスをくれました。

初めてのパートナー、初めての学校勤務、初めてシゲせんせーと呼ばれたこと。今までよく見えなかった自分の未来や働き方、生き方。1つずつ積み木を積み上げるかのように、いろいろな出来事がカタチになってきた年でした。しかも自分1人ではない。隣にパートナーがいる。喜怒哀楽を共にする人が近くにいることを、心強く思っていました。

［千葉県香取市立山田中学校］（下）

思春期教育を深い学びにつなげる工夫

性に関する指導を行っても、興味関心が薄く「自分には関係がないこと」と思っている子どもは、学習内容が印象に残らず忘れてしまうことが少なくない。山田中学校では、事前に体育科授業で「性感染症の正しい知識」をとりあげ、その後まもなく学校行事として外部講師による「思春期講演会」を実施し、子どもたちの学びを深めている。今回は授業の内容を紹介する。

３人の教諭によるＴＴできめ細かい授業を

中学校３学年の保健体育科では、「健康な生活と疾病予防」を指導し、インフルエンザなど一般的な感染症について学んだ後に、性感染症についても取り扱うこととしている。

山田中学校では「感染症の原因」、「性感染症とその予防」、「エイズとその予防」の小単元を男女共習とし、保健体育科教諭２人と養護教諭による３人のティームティーチング（ＴＴ）の形式で行っているという。

授業の役割は、保健体育科教師２人がそれぞれメイン授業者（Ｔ１）、サポート役（Ｔ２）となり、病気の詳しい解説は養護教諭（Ｔ３）が担当する。

授業はメインで進める体育科教諭と養護教諭のかけあいのようなかたちですすんでいく。

たとえば「性感染症とその予防」の授業では、最初にＴ１の教諭が、エイズや性器クラミジア感染症など主だった性感染症の名前を黒板に書いて「次の性感染症を知っていますか」と生徒たちに質問を投げかけて、挙手をさせる。

エイズについては、多くの生徒たちが挙手するが、その他の感染症については挙手する生徒はほとんどいない。

そのことを確認したうえで「性感染症の特徴と感染経路を知り、その予防を知ろう」という学習課題を生徒に伝え、授業を展開していく。

まずは性感染症の現状について生徒たちに伝えたのち体育科教諭が「性感染症はどんな年代が多いのか」といった質問をする。

香取市立山田中学校
校長　馬場 芳勝
生徒数　191 名
教職員数　23 名
（2019 年 4 月現在）

生徒たちからはいろいろな意見が出てくるが、多いのは、30 代や 40 代という答え。「10 代では、まず手があがりません」と香取雅子養護教諭は語る。

そこで、香取養護教諭が「実はね、10 代は各世代の中で３番目に多いのよ。人ごとではないから、真剣に聞いてね」というと、子どもたちは「へぇ～」と素直に驚き、身を乗り出してくるのだという。

授業の展開は、こんなふうに体育科教諭が質問して、その後、養護教諭が質問の答えを解説していくかたちですすめられる。

グループ討議で多様な意見を知る

また、生徒一人ひとりが自分のこととして考えられるように、「性感症がなかなか治らないのはなぜか」、「予防するにはどうしたらよいのか」という設問は、グループごとに話し合わせてワークシートに記入し、発表させる。

ワークシート記入時やグループ討議の間は、２名の体育科教諭と香取養護教諭がそれぞれ机間を回り、ワークシートの記入に困っていないか、リーダーを中心に話し合いがすすめられているか、きめ細かく見ていくという。

「たとえば、性感染症予防について生徒たちにワークシートを書かせると、インフルエンザなどの感染症

思春期講演会の生徒の感想から

・性感染症は、自分だけが気をつけるのではなく、周りの人も気をつけないと広まってしまうことがわかりました。みんなが性感染症の予防方法をしっかり覚えておくことが大切だと思いました。
・性感染症の最大の予防法は、その病気についてより深く理解することだと思うので、この講演を聞けてよかった。
・自分たちに近い年齢の人も性感染症になっていて、びっくりした。将来、自分のこと相手のことを考えて生きていきたい。
・性感染症が身近にあるのだと理解することができ、また、感染しているからといって差別することは絶対にあってはいけないと思いました。

保健体育科の授業で、性感染症について解説する香取養護教諭

専門医を招いて行う思春期講演会で学びを深める

グループ討議

と混同して『手洗いやマスクで予防する』と回答している生徒もいます。

授業後に行われる思春期講演会では、泌尿器科の先生がご専門の立場から性感染症について詳しく話してくださるので、知識の乏しい生徒が『なんのことかわからない』と戸惑うことがないように、授業でできるだけわかりやすく解説していきます」と香取養護教諭は授業の様子を語る。

また「性教育の知識面だけでなく、心理面にも重点を置いて、相手を思いやる気持ちがとても大事であること。性的な関係をもつのは早いと思うなら、相手に対してはっきり『ＮＯ』といって話し合える関係を築いてほしいことなども伝えています」とも。

充実した思春期健康教育を継続するために

最後に、香取養護教諭は「３学年における思春期健康教育が定着しつつある今、今後は性感染症の話だけではなく、先生方のご意見を伺いながらほかのテーマも模索していきたい。たとえば、助産師さんの命の授業をテーマにした思春期講演会も生徒の心に響くのではと考えています。

他教科との関連や家庭、地域とも連携を深めて、さらに充実した思春期健康教育を継続していけるよう取り組んでいきたい」と抱負を語ってくれた。

（取材・文　エム・シー・プレス　中出三重）

多様な性のゆくえ
One side／No side ［31］

宮田 一雄
みやた　かずお
ジャーナリスト。公益財団法人エイズ予防財団理事、特定非営利活動法人エイズ＆ソサエティ研究会議事務局長。

女性は１割の相場観

『安倍内閣は７年目を迎えたこれからも、挑戦あるのみ。常にチャレンジャーの気持ちであらゆる政策分野においてこれまでの発想にとらわれない、大胆な改革に挑戦してまいります』

７月の参院選勝利を受け、安倍晋三首相は９月11日、第４次安倍第２次改造内閣の組閣を断行した。閣僚名簿の発表後に記者会見を行った首相は、冒頭のように決意を語っている。その意気やよし……といいたいところだが、積極的な女性閣僚の起用はそのチャレンジの中には含まれていなかったようだ。

閣僚20人中女性は、高市早苗総務大臣と東京オリンピック・パラリンピックや女性活躍を担当する橋本聖子大臣の２人だけ。10月31日には河合克行法務大臣が辞任し、森まさこ参院議員が後任となったが、それでも女性閣僚の割合は２割に満たない。

安倍首相は組閣当日の記者会見で「自民党は老壮青、人材の宝庫です」というフレイズを２回も繰り返している。『今回は、これまでで最も多い13名の方が初入閣となりました』とも強調した。

その13人で見ると女性は橋本大臣だけである。これでは、老壮青を通し自民党には女性の人材が払底していますよと、ほのめかしているようなものではないか。

９月24日（日本時間25日）にはニューヨークの国連本部で安倍首相の国連総会一般討論演説が行われた。その中で首相はこう強調している。

『女性がその持てる可能性を思うさま発揮できたなら、世界はそれだけ輝きを増します。当たり前ではありませんか。今女性の労働参加率が顕著に伸びた日本は、その当然の事実を日々感じています』

首相にとってはあまりにも当たり前すぎるので、日々に感じているその事実を、組閣当日にはついつい忘れてしまったのかもしれない。

『議長、私は本議場において一般討論に立つこと、今回で連続７度目です。この間一貫して、女性と少女の力をつける大切さ、ヘルスケアを万人に普遍のものとする意義を強調してきました』

７年も連続して国連総会で演説する政治指導者は、そう多くはいない。「で、おたくの閣僚に女性は何人?」と質問されたら、日本政府はどう答えるのだろうか。内閣府のホームページに歴代閣僚名簿が掲載されているので、これまでの女性閣僚比率を確認してみよう。

まず、直前の第４次安倍第１次改造内閣は特命担当の片山さつき大臣のみ。相対的な評価なら、現在は女性閣僚が３倍に増えたといえなくもない。

ただし、その前は２人の時期が１年２カ月ほど続き、さらにその前は2015年10月７日の第３次安倍第１次改造内閣から２年近く３人の時期が続いていた。

３人から２人に減ったのは2017年７月28日に稲田朋美防衛大臣が辞任したときだった。

もう少しさかのぼると、2014年９月３日に発足した第２次安倍改造内閣は「女性の活躍推進」を成長戦略の柱として位置づけ、５人の女性閣僚が誕生している。ただし、松島みどり法務大臣と小渕優子経産大臣の二人が10月21日に辞任し、５人の時代はわずか１か月半で終わってしまった。

女性閣僚はその後、４人（松島大臣の後任も女性だった）→３人→２人と減少し、ついに１人まで後退した。それでも、さすがにゼロにはなっていない。一寸先は闇などと言われる政治の世界のことなので、もう少し推移を見ていく必要はありそうだが、女性閣僚の減少傾向も底を打ち、今回の組閣で上昇傾向に転じたということなのだろうか。

誤解のないように付け加えておくと、女性閣僚比率が１割程度という状態は、安倍内閣だけに限った話ではない。例えば、2009年９月16日から2012年12月26日までほぼ３年３カ月にわたって続いた民主党政権でも、鳩山由紀夫内閣、菅直人内閣、野田佳彦内閣の３代を通じて、女性閣僚は２人または１人の時期が続いていた。

安倍政権下ではスキャンダルや失言のために女性閣僚が任期半ばで退任し、それが女性登用の後退傾向を促す経緯をたどった。この点はやや残念でもある。

BOOK GUIDE
今月のブックガイド

お母さん！ 学校では防犯も SEX も避妊も教えてくれませんよ！

のじまなみ著
辰巳出版
定価 1400 円＋税

性教育は３歳から

博士論文を執筆中の院生が「提出するまで新しいパンツは買いません」と言う。まぁ、パンツ云々はものの喩えで、要は、好きなショッピングを封印して論文執筆に専念するという意気込みを表明したのだろう。「しばらくはヨレヨレのパンツで」と笑う院生に、思わず私は叫んでいた――「え⁉ 事故に遭ったらどうするの！」

その場に居合わせた院生たちは無言。奇妙な沈黙のあと、こう言われた。「えーと ･･･ 先生、どういう意味ですか？」

えぇー！ だって、ヨレヨレのパンツをはいていたときに限って、万一、交通事故にあったら恥ずかしいじゃない。「いざというときのために」と、しどろもどろで説明する私に、若者たちは冷ややかな目を向けた。「『いざというとき』って、そういうときじゃありません」･･･ そうか、もっとセクシーな展開のときをいうのね。

この“パンツ事件”によって、私は、自分の中に刻み込まれた家族の性的な価値観に改めて気づかされたのだった。私が育った家庭では、パンツはあくまで「肌着」であり、隠されるべきもの。他人様（医療従事者）の目に触れさせる失礼がある以上、せめて清潔なものを身に着けるべし。これは恥と潔白にまつわる問題である。この教えは娘である私だけでなく、母親は夫の肌着にも尋常ならざる注意を向けていたから、まさに我が家の暗黙の家訓なのだった。

そんなわけで、私にとってパンツは貞操帯にも似た“砦”であり、もちろんパンツのなかの話を両親としたこともない。まぁ、その反動で、今こうして性をあけすけに研究する立場になったわけですが。

ずいぶん前置きが長くなってしまったが、本書は、性教育アドバイザーであり「とにかく明るい性教育【パンツの教室】協会代表理事」の著者による家庭での性教育のススメである。泌尿器科の看護師として勤務したのち、自身の子育て経験から「お母さん」たちに家庭でできる楽しい性教育を伝えている。2018 年の同会の設立から、母親向けの講演や教材開発に取り組まれ、本の売れ行きも絶好調。本書のキャッチーなタイトルが物語っているように、世の母親の不安や疑問に直球で答える内容である。

家庭での性教育は３歳から。「うんち・ちんちん・おっぱい」が大好きな年齢でこそ、からだについて教えて、妊娠や出産に対する子どもの関心には正面から答えるべき。10 歳ともなれば、親の言うことは「キモ、ウザ」と聞き流されるものだが、それにひるまず簡潔に伝え続けること。思春期の「ノーサンキュー期」ではもう遅い！ ３歳から 10 歳が性教育適齢期。まずは、母親自身が「性＝恥ずかしいもの」という概念を取っ払い、性器の名前を元気に発する「練習」をすること。子どもの疑問には「いい質問だね！」と返して時間を稼ぎ、それをチャンスに知識を教える。境界線は「水着ゾーン」とわかりやすく説明する ･･･ など、わかりやすい実践が紹介されている。おぐらなおみさんのイラストも楽しい。

本書のターゲットは「お母さん」。お父さんには期待するのは「まったくもってムダ！」とバッサリ。そのあたりも、母親の不満にリアルに応えるものかもしれない。両親の関係性こそが子どもにとって何よりの性教育になることを考えれば、これからはもっと母親がアテにできる父親が求められるだろう。

それにしても、いつまで母親は家族の「パンツ」の担当でいなければならないのだろう。明るいパンツの話を読んで、再び、パンツにおけるジェンダーの闇を感じずにはいられないのだった。

（大阪大学大学院准教授　野坂祐子）

研究会、研修会等の情報を下記まで、郵送または、
メール（info_jase@faje.or.jp）でお寄せください。
〒112-0002　文京区小石川2-3-23春日尚学ビル B1
日本性教育協会「JASE ジャーナル」係

JASE 性教育研修セミナー
2019 in 大阪

主催 一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会
共催 SEE（Sexuality Education and Empowerment）
大阪府立大学女性学研究センター

令和時代の若者は、不活発化でセックスレス !?

～日本と中国の「性行動調査」にみる若者像～

日本性教育協会（JASE）が実施した第 8 回青少年の性行動全国調査の報告と、ほぼ同時期に実施した中国（北京、上海、広州）の「性行動調査」の分析報告、世界の若者の性行動の実態などをもとに、現代の若者の性行動・性意識の変化をみていきます。さらに、それらの報告をもとにこれからの性教育のあり方をみなさんと考えていきます。

2019 年
12月14日（土）
18：00▸20：40
（受付17:30）

プログラム

18：00~18：30　講演①　性行動・意識の消極化と分極化
林　雄亮（武蔵大学社会学部准教授）

18：30~19：00　講演②　避妊行動の実態と性教育の可能性
土田　陽子（帝塚山学院大学人間科学部教授）

19：00~19：30　講演③　中国における性行動・性意識の現状と日本との比較
守　如子（関西大学社会学部教授）

19：30~20：00　講演④　世界の若者の性行動・性意識の変化
東　優子（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授）

（休憩 10 分）

20：10~20：40　Q&Aディスカッション
「これからの性教育をどう進めていくか」
野坂　祐子（モデレーター・大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

会　場	大阪府立大学 I-Site なんば（大阪市浪速区敷津東２－１－41）
対　象	教育、保健、看護、医療関係者、学生、「性」「性教育」「セクソロジー」に関心のある方。
参加費	一般 1,000 円、学生 500 円（当日受付でお支払いください。）
申　込	JASE ウェブサイトの申込ページ https://www.jase.faje.or.jp/support/jasstokyo.html#s1912osaka のフォームからお申込みください。
定　員	80 名

＜問合せ先＞ JASE 一般財団法人日本児童教育振興財団内　日本性教育協会事務局
〒112-0002　東京都文京区小石川 2-3-23　春日尚学ビル B 1
〈お問い合せ電話〉03-6801-9307

「青少年の性行動／日中比較研究」報告書 2019

30 年ぶりに刊行できた本書が、経年調査の比較を含めて、両国の青少年の性意識・性行動の実態を把握できる唯一の報告書です。

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第 8 回青少年の性行動全国調査」委員会内日中比較小委員会
協力 / 日本青少年研究所・上海社会科学院社会科学研究所

1974 年に第 1 回が開始され、2017 年に第 8 回を迎えた「青少年の性行動全国調査」は本年 8 月に「若者の性」白書が刊行されました。40 年近く続けられたこの調査は、国内を始め国外でも類例は極めてまれで、貴重な調査データとして国際的にも認知されています。

今回の日本における調査に際して他国との比較研究を検討し、上海社会科学院社会科学研究所の協力のもと、中国の青少年の性行動に関してほぼ同一の質問用紙にて調査が実現しました。調査地点は、北京・上海・広州の 3 地域であり、調査期間は 2017 年 10 月から 2018 年 3 月までで、調査対象者は中学生・高校生・大学生合計約 5000 人です。

〈主な内容〉

- ●はじめに
- ●序章　調査の概要
- ●第 1 章　性行動
- ●第 2 章　性イメージの日中比較
- ●第 3 章　避妊行動の日中比較
- ●第 4 章　中国の若者の性行動とその動機
- ●第 5 章　性の情報源の日中比較
- ●おわりに
- ●付表・中国の青少年の基礎集計表

B5 判　102 ページ

頒価：1,000 円

A4 判　80 ページ

頒価：1,000 円

青少年の性行動

わが国の中学生・高校生・大学生に関する第 8 回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第 8 回青少年の性行動全国調査」委員会

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、この 6 年間でどのように変容したかがわかる。若者の性を理解するための必須の資料！

2017 年 6 月から同年 12 月にかけて実施した「第 8 回青少年の性行動全国調査」の単純集計をまとめ一次報告書として刊行。主要な結果「デート経験」「キス経験」「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果を掲載。

両書籍とも、JASE ホームページからお申し込みいただけます。

https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html

または、Email　info_jase@faje.or.jp、　TEL 03-6801-9307　FAX 03-5800-0478 までお申し込みください。

●本書に関するお問い合せにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
〒 112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B 1
TEL 03-6801-9307　　FAX　03-5800-0478
Mail　info_jase@faje.or.jp　URL https://www.jase.faje.or.jp

JASE

「若者の性」白書

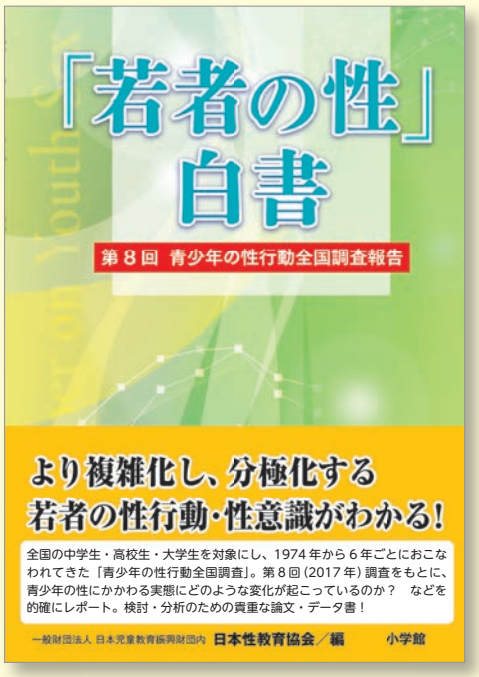
第８回　青少年の性行動全国調査報告

全国の中学生・高校生・大学生を対象にし、1974 年から６年ごとにおこなわれてきた「青少年の性行動全国調査」。第８回（2017 年）調査をもとに、青少年の性にかかわる実態にどのような変化が起こっているのか？　などを的確にレポート。検討・分析のための貴重な論文・データ書！

主な内容

序　章　第８回「青少年の性行動全国調査」の概要
第１章　変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
第２章　青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
第３章　家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
第４章　知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
第５章　青少年の性行動と所属集団の性行動規範
第６章　青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
第７章　性的被害と親密性からの／への逃避
第８章　青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～
付表Ⅰ　「青少年の性に関する調査」調査票
付表Ⅱ　基礎集計表（学校種別・男女別）

＊コラム
1…性情報について
2…性教育をめぐる近年の社会的動向
3…LGBT 学生について
4…男性の性的被害
5…「青少年の性行動全国調査」の困難と課題



好評発売中！

本体2,200円+税
Ａ5判 256ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会　　発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！